

4-2-1 木曾山脈（中央アルプス）における出現種の分布 1

以下に、中央アルプスにおける代表的な種の分布図を示す。

1 ハハコヨモギ(キク科)

Artemisia glomerata



県絶滅危惧種 I B 類の希少種で、中アが主な分布（県外では南ア・群馬）。尾根沿いの砂礫地に生え、草丈 7～15cm。根茎は木質化する。

2 コケコゴメグサ(ゴマノハグサ科)

Euphrasia kisoalpina



県絶滅危惧種 I B 類の希少種で、中ア固有。高さ 1～3 cm で風衝草原の岩陰の砂地に生える。基準標本は木曾駒ヶ岳である。

3 ハクセンナズナ(アブラナ科)

Macropodium pterospemumia



県絶滅危惧 II 類の希少種。中アでも生育は少ない。

高さ 1 m、花序 40cm にもなる大型の植物で、流水周辺に群生する。

4 チョウノスケソウ(バラ科)

Dryas octopetala var. asiatica



北海道～本州中部の高山帯の岩地に稀に生える矮性の低木。一見草本に見える。採集者須川長之介の名に因む。氷期の北半球では、広く繁栄していたとされる。

5 チシマギキョウ(キキョウ科)

Campanula chamissoris



本州中部以北の高山岩場に生育。岩礫地の多い中アの方が、南アより生育が多い。花冠の縁の長毛が特徴。

6 イワギキョウ(キキョウ科)

Campanula lasiocarpa



チシマギキョウと同じく高山岩場に生育する。花冠の縁に毛がなく、萼は針状。

4-2-2 木曾山脈（中央アルプス）における出現種の分布 2

7 シラタマノキ(ツツジ科)
Gaultheria miqueliana



亜高山～高山帯の草地や林縁に生える常緑低木。果実はやや赤みを帯びた白色で、下垂する。
もむと、サロメチール臭がする。

8 チョウジコメツツジ(ツツジ科)
Rhododendron tsuchonoskii var. *tetramerum*



本州中部の亜高山～高山帯の岩礫地に生える日本固有種。
花は4裂し、径5～6mmと小さい。

9 ハクサンフウロ(フウロソウ科)
Geranium yesoense



高原の代表種で、亜高山の草地や礫地で紅紫色の花を多数つける。日本固有種。

10 タカネゲンナイフウロ(フウロソウ科)
Geranium eriostemon var. *onoei*



本州中部の亜高山～高山帯の草地や林縁に生える日本固有種。
濃紫色の花を付け、葉裏の脈状にのみ毛がある。

11 オオヒョウタンボク(スイカズラ科)
Lonicera tschonoskii



高山帯の礫地に生える日本固有の落葉低木。
スイカズラ科特有の派手な白い花をつけ、ひょうたん型の有毒の実は赤く熟す。

12 ヒメウスユキソウ(キク科)
Campanula chamissoris



コマウスユキソウとも言い、中ア特産の希少種で絶滅危惧 I B 類。
岩場や岩礫地に生育する。高さ4～7cmと小型で、木曾駒ヶ岳が基準標本となっている。